

# Object Storage Service

コンソールユーザガイド

# コンソールユーザガイド

## Alibaba Cloud OSS コンソールへのログイン

Alibaba Cloud OSS コンソールには、直感的に多数の OSS 機能进行操作できるインターフェイスが用意されています。OSS コンソールにログインする前に、Alibaba Cloud アカウントへの登録と実名認証が完了していることを確認してください。Alibaba Cloud アカウントがない場合は、OSS を有効化する際にアカウント登録を求めるメッセージが表示されます。

### 操作手順

Alibaba Cloud Web サイトにログインします。

OSS プロダクト詳細ページを開いて、**[有効化]** をクリックします。

OSS が有効化されたら、**[コンソール]** をクリックして、OSS コンソールインターフェイスにアクセスします。

また、ホームページの右上にあるメニューバーで **[コンソール]** をクリックして、Alibaba Cloud コンソールのメインページを開き、下図のボタンをクリックして OSS コンソールインターフェイスにアクセスすることもできます。



# バケットの管理

## バケットの概要

Alibaba Cloud OSS のファイルはすべて、バケットに格納されます。格納されたファイルは、このバケット単位で管理され、すべてのオブジェクトはバケットに属する必要があります。バケットの属性は、リージョンに合わせて、また、ファイルのアクセス制御やライフサイクル管理のために設定することができます。属性は、バケット内のすべてのファイルに適用されます。したがって、さまざまなバケットを作成して、それぞれ異なる管理機能を柔軟に実装できます。

バケット内のストレージ容量は非階層型です。つまり、ディレクトリなどのファイルシステム機能がありません。したがって、すべてのファイルが、対応するバケットに直接関連付けられます。ただし、関連するファイルをフォルダーごとにグループ化、分類、および管理することはできません。

バケットの概要ページのコンテンツを次に示します。

The screenshot displays the 'Bucket Overview' page for 'oss-sup' in the Asia Pacific NE 1 (Tokyo) region. Key elements include:

- Summary (7):** Shows bucket name, region, capacity (40.275GB), and creation time (2017-02-08 13:51:21).
- Storage Capacity:** A bar chart showing storage occupancy (MB) over time.
- Traffic (1 時間フローを使用):** A line chart showing various traffic types (CDN, Internet, Intranet, Cross-Region) over time.
- Requests (1 時間あたりのリクエスト数):** A line chart showing the number of requests (Get-type, Put-type) over time.
- OSS Domain Names (8):** A table listing domain names for different access scenarios.
- Basic Settings (9):** A section for configuring bucket properties like logging, lifecycle, and anti-leech.

SN	コンテンツ	説明
1	バケットの概要	バケットの概要、基本情報、OSS ドメイン名を確認できます。
2	バケットの設定	バケットの属性を表示および変更するときに、このボタンをクリックします。

3	オブジェクト	バケットのファイルとフォルダーを表示および管理するときに、このボタンをクリックします。
4	フラグメント	マルチパートアップロードによって発生したファイルフラグメントを表示および削除するときに、このボタンをクリックします。
5	タスク	このボタンをクリックすると、OSS アクセス設定が自動的に生成され、OSS アクセストークンを生成するためのキーが作成されます。
6	イメージサービス	イメージ保護とアクセス方式を設定します。
7	リソースモニタリング	OSSリソースモニタリングが表示されます。
8	OSSドメイン名	ドメイン名表示および管理します。
9	基本設定	バケット権限とAnti-leech 設定表示および管理します。

## バケットの作成

ファイルを OSS にアップロードする前に、ファイルを格納するバケットを作成する必要があります。バケットは、リージョン、アクセス権限、その他メタデータなど、さまざまな属性を設定します。

### 手順

[OSSコンソール]に移動します。

[概要]、[バケットを作成] の順にクリックして、[バケットを作成] ダイアログボックスを開きます。

✕

---

バケットを作成

バケット名:

バケット命名規則のルール:  
» 小文字、数字、およびハイフンのみを使用できます。  
» 最初と最後の文字は小文字と数字にします。  
» バケット名は 3 ~ 63 文字の範囲で指定します。

リージョン:

同じリージョン内のプロダクトイントラネットが相互接続されています。リージョンは購入後は変更できません。リージョンは慎重に選択してください。

ACL:

» 非公開: オブジェクトへのすべてのアクセスに認証が必要です。  
» 公開読み取り: オブジェクトの書き込みに認証が必要です。オブジェクトの匿名読み取りが許可されています。  
» 公開読み書き: すべての人がオブジェクトを読み書きできます。

**[バケット名]** テキストボックスに、バケット名を入力します。バケット名は命名規則に準拠している必要があります。Alibaba Cloud OSS 内の既存のバケット名全体で一意にする必要があります。バケット名は作成後は変更できません。バケット命名の詳細については、『Alibaba Cloud OSS 開発者ガイド』の該当する章を参照してください。

**[リージョン]** ドロップダウンボックスで、バケットのデータセンターを選択します。リージョンは登録後は変更できません。ECS イントラネット経由で OSS にアクセスするには、お使いの ECS と同じリージョンを選択します。リージョンの詳細については、『Alibaba Cloud OSS 開発者ガイド』の該当する章を参照してください。

**[ACL]** ドロップダウンボックスで、バケットのアクセス権限を選択します。バケットの作成後、バケット属性を設定することでバケットのアクセス権限を変更できます。アクセス権限の詳細については、『Alibaba Cloud OSS 開発者ガイド』の該当する章を参照してください。

**非公開:** バケットの所有者と許可されたユーザーだけが、バケット内のオブジェクトに対する読み込み、書き込み、および削除操作を実行できます。他のユーザーは、バケット内のオブジェクトにアクセスすることはできません。

**公開読み取り:** バケットの所有者と許可されたユーザーのみが、バケット内のオブジェクトに対して書き込み操作と削除操作を実行できます。誰でも（匿名アクセスを含む）バケット内のオブジェクトを読み取ることができます。

**公開読み書き:** 誰でも (匿名アクセスを含む)、バケット内のオブジェクトを読み書きし、削除することができます。そのような操作によって発生した手数料は、バケツの所有者が負担します。この許可は慎重に使用してください。

[送信] をクリックします。バケットが正常に作成されました。

## バケットの削除

不要になったバケットは、これ以上料金がかからないように削除します。

### 前提条件

バケットを削除する前に、完了していないマルチパートアップロードによって発生したファイルフラグメントを含め、そのバケット内のすべてのファイルが消去されていることを確認してください。ファイルが残っていると、バケットを削除できません。

#### 注意:

- バケット内のすべてのファイルを削除する場合は、**ライフサイクル管理**を使用することをお勧めします。
- フラグメントファイルを削除する場合は**フラグメントの管理**を参照してください。

### 手順

[OSSコンソール]に移動します。

ターゲットバケットの [削除] リンクをクリックします。

[確認] をクリックして、バケットを削除します。

**注:** 削除後はバケットを復元できません。

# ACL 設定

OSS には、権限制御のためのアクセス制御リスト (Access Control List、ACL) が用意されています。バケットを作成するときに ACL を設定できます。バケットを作成した後に変更を行うことができます。ACL が設定されていない場合、デフォルト値は **Private** (非公開) です。

OSS の ACL は、バケットレベルのアクセス制御を提供します。現在、バケットに対して使用できるアクセス権限は 3 つあります。

- **公開読み書き**: すべてのユーザー (匿名ユーザーを含む) がバケット内のファイルの読み取りおよび書き込み操作を実行できます。これらの操作によって発生する費用はバケットの作成者の負担になります。この権限を使用する際には注意してください。
- **公開読み取り**: バケットの作成者のみがバケット内のファイルの書き込み操作を実行できます。ファイルの読み取り操作については、すべてのユーザー (匿名ユーザーを含む) が実行できます。
- **非公開**: バケットの作成者のみがバケット内のファイルの読み書き操作を実行できます。他のユーザーはファイルにアクセスできません。

## 操作手順

[OSSコンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

左側のナビゲーションパネルで、[バケットのプロパティ]、[ACL] の順にクリックします。

[読み書き権限] ドロップダウンボックスで、バケットのアクセス権限を選択します。

[設定] をクリックして設定を保存します。

## 静的 Web サイトホスティング

コンソールを使用してバケット設定を静的 Web サイトホスティングモードに変換し、この静的 Web サイトにバケットドメイン名でアクセスできます。

- デフォルトページが空白の場合は、静的 Web サイトホスティングが無効になっていることを示し

ます。

- 静的 Web サイトホスティングモードを使用する場合は、CNAME を使用してドメイン名をバインドすることをお勧めします。
- 静的 Web サイトのルートドメイン名や、"/" で終わるこのドメイン名の任意の URL に直接アクセスすると、デフォルトのホームページが返されます。

詳細については、プロダクトドキュメントの「静的 Web サイトホスティング」を参照してください。

## 手順

[OSS コンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

**基本設定**をクリックします。

左側のナビゲーションパネルで、[バケットのプロパティ]、[Web サイト] の順にクリックします。

[**デフォルトの Web ページ**] ボックスは、インデックスページ (Web サイトの index.html に相当します) を設定するときに使用します。バケットに格納されている HTML ファイルのみを指定できます。

[**404 エラーのデフォルトの Web ページ**] ボックスは、正しくないパスにアクセスされた場合に返されるデフォルトの 404 ページを設定するときに使用します。バケットに格納されている HTML ファイルとイメージファイルのみを指定できます。このボックスに何も指定しないと、デフォルトの 404 ページは無効になります。

[**設定**] をクリックして、静的 Web サイトの設定を保存します。

## ログの設定

コンソールでバケットに関するログを有効または無効にすることができます。ログは、対象バケットか、または別のバケットに保存できます。バケットのログ形式の詳細については、『Alibaba Cloud OSS 開発者ガイド』の該当する章を参照してください。

## 手順

[OSSコンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

左側のナビゲーションパネルで、[バケットのプロパティ]、[ログ]の順をクリックします。

[ログ保存先] ドロップダウンボックスで、ログを格納するバケットの名前を選択します。同じユーザーおよびデータセンターのバケットのみを選択できます。ログを無効にするには、[バケットなし]を選択します。

[ログのプレフィックス] テキストボックスに、ログ名のプレフィックス (以下の命名規則の <TargetPrefix>) を入力します。

[設定] をクリックしてログの設定を保存します。

## ログ命名規則

アクセスログストレージのオブジェクト命名規則の例を以下に示します。 <TargetPrefix><SourceBucket>-YYYY-MM-DD-HH-MM-SS- <UniqueString>

- <TargetPrefix>: ユーザーが指定したログのプレフィックスを示します。
- <SourceBucket>: ソースバケットの名前を示します。
- YYYY-MM-DD-HH-MM-SS: ログが作成されたときの北京現地時間を示します。YYYY は年、MM は月、DD は日付、HH は時間、MM は分、SS は秒をそれぞれ表します。
- <UniqueString>: OSS によって生成された文字列を示します。

OSS アクセスログの格納に使用されるオブジェクト名の例を以下に示します。MyLog-OSS-example-2015-09-10-04-00-00-0000上の例では、**MyLog-** はユーザーが指定したログプレフィックス、**oss-example** はオリジンバケットの名前、**2015-09-10-04-00-00** はログの作成日時 (北京現地時間)、**0000** は OSS によって生成された文字列をそれぞれ表します。

## Anti-leech 設定

OSS は、従量課金サービスです。OSS のデータの盗難による追加料金を抑えるために、OSS では、HTTP へ

ッダーのリファラーフィールドに基づいた Anti-leech がサポートされています。バケットに対してリファラーのホワイトリストを設定するか、またはリファラーフィールドが空の場合にコンソールを介したアクセスリクエストを許可するかどうかを指定できます。

## 手順

[OSS コンソール]へログインします。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

左側のナビゲーションパネルで、[バケットのプロパティ]、[Anti-leech] の順にクリックします。



[設定] をクリックして Web サイトのホワイトリストを追加し、そのホワイトリストを空にできるかどうかを設定します。

[送信] をクリックして、Anti-leech 設定を保存します。

## 例

test-1-001 という名前のバケットの場合は、リファラーホワイトリストを <http://www.aliyun.com> に設定します。このように設定すると、<http://www.aliyun.com> というリファラーを使ったリクエストのみがバケット内のオブジェクトにアクセスできるようになります。

## ドメイン名管理

オブジェクトをバケットにアップロードすると、オブジェクトのアドレスを取得できます。このアドレスは、OSS ドメイン名アドレス (<BucketName>.<Endpoint>) とオブジェクトファイル名の 2 つの部分で構成されています。ビジネスでクロスオリジンまたはセキュリティの問題が発生しないように、ユーザー定義のドメイン名を使用して OSS にアクセスすることをお勧めします。ドメイン名が正常にバインドされたら、適切なドメイン名に基づいて確実に OSS にアクセスできるように、バケットのインターネットドメイン名を指

定する CNAME レコードを追加する必要もあります。

**注意:**

- バインドされているドメイン名は ICP ライセンスを取得する必要があります。取得されていないと、ドメイン名に基づいたアクセスが影響を受けます。(中国リージョンのみ)
- バケットごとに最大 20 のドメイン名をバインドできます。

ユーザー定義のドメイン名が正常にバインドされると、OSS に格納されているファイルのアクセスアドレスにそのユーザー定義のドメイン名が使用されます。たとえば、バケット test-1-001 が杭州ノードにある場合、オブジェクトファイル名は test001.jpg になり、バインドされているユーザー定義のドメイン名は hello-world.com になります。また、このオブジェクトのアクセスアドレスは次のようになります。

- バインドされる前: test-1-001..oss-cn-hangzhou.aliyuncs.com/test001.jpg
- 適切にバインドされた後: hello-world.com/test001.jpg

## ドメイン名バインディング

OSS コンソールに移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

[バケットのプロパティ]、[ドメイン名管理] の順をクリックします。

[ドメイン名を追加] をクリックします。[ドメイン名を追加] ページが表示されます。

ダイアログボックスで、バインドするドメイン名を入力します。

[次へ] をクリックします。[正規名の追加] ページが表示されます。

**注意:** バインドしたいドメイン名が他のユーザーによって故意にバインドされている場合、追加中に保持される TXT レコードでその所有権を検証できます。この方法により、以前のバケットへのバインドがリリースされていても、ドメイン名を適切なバケットに強制的にバインドすることができます。

ドメイン名に基づいて、自動または手動での追加方法を選択します。

自動での追加方法: 対応する CNAME レコードが Alibaba Cloud DNS に自動的に追加されます。該当ドメイン名が Alibaba Cloud DNS で解決されない場合、ドメイン名の DNS を Alibaba Cloud DNS に変更する必要があります。

手動での追加方法: ドメイン名が他のアカウントの Alibaba Cloud DNS で既に解決されている場合は、手動で CNAME レコードを追加する必要があります。

[完了] をクリックして、ドメイン名バインディングを完了します。

## ドメイン名所有権の検証手順

TXT レコードが生成されるのを待ちます。

DNS プロバイダーにログインし、対応する TXT レコードを追加します。

コンソールで、[検証] をクリックします。このドメインの TXT レコード値が想定どおりに検出されると、検証に成功します。

# Cross-Origin Resource Sharing

クロスオリジンアクセスを実現するために、OSS では HTML5 プロトコルの CORS (Cross-Origin Resource Sharing) 設定を提供しています。クロスオリジンリクエスト (または OPTIONS リクエスト) を受信すると、バケットの CORS ルールを読み取り、関連する権限を確認します。各ルールを順番に調べて、最初に一致したルールを使用してリクエストを承認し、対応するヘッダーを返します。一致するルールがない場合、CORS ヘッダーは含まれません。

## 手順

[OSS コンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

[バケットのプロパティ]、[CORS] の順にクリックします。

[ルールを追加] をクリックします。[CORS ルールの設定] ダイアログボックスが表示されます。

追加したルールをダイアログボックスで設定します。

**[ソース (Allowed Origin)]:** クロスオリジンリクエストが許可されているオリジンを示します。複数のマッチングルールを、キャリッジリターンで区切って指定できます。マッチングルールごとに1つのワイルドカード “\* ”を使用できます。

**[方法]:** 許可されるクロスオリジンリクエストメソッドを示します。

**[許可ヘッダー]:** 許可されるクロスオリジンリクエストヘッダーを示します。複数のマッチングルールを、キャリッジリターンで区切って指定できます。マッチングルールごとに1つのワイルドカード “\* ”を使用できます。

**[公開ヘッダー]:** ユーザーがアプリケーション (Javascript の XMLHttpRequest オブジェクトなど) からアクセスできる応答ヘッダーを示します。

**[キャッシュ期間]:** 特定のリソースに対するブラウザープリフェッチ (OPTIONS) リクエストの結果のキャッシュ期間を示します。

[OK] をクリックして、このルールを保存します。設定したルールを変更または削除することもできます。

バケットごとに最大 10 のルールを設定できます。

## ライフサイクル管理

バケット内のオブジェクトのフルセットまたはサブセットに対してライフサイクルルールを定義することができます。ライフサイクル管理を使用して、バッチファイル管理、フラグメントの自動削除など、さまざまな操作を実行することができます。

- ライフサイクルルールに一致するオブジェクトについては、有効日から 2 日以内に必ずデータが消去されます。
- ライフサイクルルールに基づいてバッチ削除されたデータは復元されません。このようなルールは慎重に設定してください。

## 操作手順

[OSS コンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

[バケットのプロパティ]、[ライフサイクル] の順にクリックします。

[ルールを追加] をクリックします。[ライフサイクルルールの設定] ダイアログボックスが表示されます。

追加したルールをダイアログボックスで設定します。

ライフサイクルルールの設定

ルールの設定は 1 日以内に有効になります。バッチ削除されたデータは復元できません。ルールは慎重に設定してください。

ステータス:  オン  オフ

ポリシー:  バケット全体に適用  プレフィックスで設定

プレフィックス:

Object設定:  有効期限  有効期間

オブジェクトは、IAに保持します:  オン  日間

オブジェクトは、Archiveに保持します:  オン

指定日よりも後に存在するオブジェクトを削除:  オン

フラグメントの削除:  有効になっていません  有効期限  有効期間

指定日よりも後に存在するフラグメントを削除:  日間

OK キャンセル

**ステータス:** ルールのステータスを指定して、ルールが有効か無効かを示します。

#### ポリシー

- **バケット全体に適用:** このオプションを選択した場合、ルールはバケット内の全てのオブジェクトに適用されます。
- **プレフィックスで設定:** このオプションを選択した場合、プレフィックスを設定する必要があります。ルールは設定されたプレフィックスで抽出したオブジェクトのみに適用されます。img/ は 1 つの例です。

#### Object設定

- **有効期限:** オブジェクトの最終変更日時が指定した日付より前である場合、そのオブジェクトはすべて削除されます。たとえば、有効期限が 2012-12-21 に設定されている場合、最終変更日時が 2012-12-21 より前のオブジェクトがバックエンドプログラムによってスキャンされ削除されます。
- **有効期間:** オブジェクトを保持する日数を指定します。オブジェクトの最終変更日時からの日数が指定した日数を超える場合にルールが実行され、そのオブジェクトが削除されます。たとえば、30 日に設定されている場合、最終変更日時が 2016-1-1 のオブジェクトは、2016-1-31 にバックエンドプログラムによってスキャンされ削除されます。

### フラグメントの削除

- **有効になっていません:** このオプションを選択した場合、フラグメントが自動的に削除されることがありません。
- **有効期限:** マルチパートアップロードタスクの最終変更日時が指定した日付より前である場合、そのタスクはすべて削除されます。たとえば、有効期限が 2012-12-21 に設定されている場合、最終変更日時が 2012-12-21 より前のマルチパートアップロードタスクは、バックエンドプログラムによってスキャンされ削除されます。
- **有効期限:** マルチパートアップロードタスクを格納しておく日数を指定します。マルチパートアップロードタスクの初期化日時からの日数が指定した日数を超える場合にルールが実行され、そのタスクが削除されます。たとえば、30 日に設定されている場合、初期化日時が 2016-1-1 のマルチパートアップロードタスクは、2016-1-31 にバックエンドプログラムによってスキャンされ削除されます。

[OK] をクリックして、このルールを保存します。ルールが正常に保存されると、ポリシーに設定されたライフサイクルルールを確認し、対応する **編集** 操作または **削除** 操作を実行できます。

## リージョン間レプリケーション

現在、クロスリージョンレプリケーションは、異なる名前のバケットの同期をサポートしています。異なるリージョンに属する2つのバケットがある場合は、コンソール内のリージョン間レプリケーション機能を有効にして、ソースバケットからターゲットバケットにデータを同期させることができます。

**注意:** 現在、リージョン複製機能は、中国本土と米国東部と西部の異なるリージョン間でのみサポートされています。現在、他のリージョンではサポートされていません。

## 手順

[OSS コンソール]にログインします。

左側のバケットリストで、ターゲットバケット名をクリックして、バケット概要ページを開きます。

**基本設定**タブをクリックし、**クロスリージョンレプリケーション**を選択します。

**同期を有効にする** をクリックして、**クロスリージョンレプリケーション**ダイアログボックスを開きます。

ターゲットバケットのリージョンと名前を選択します。

### 注意:

- データ同期のための2つのバケットは、異なるリージョンに属していなければなりません。同じ地域のバケット間ではデータの同期ができません。
- クロスリージョンレプリケーションを有効にした2つのバケットは、他のバケットとの同期関係を持つことができません。

**データ同期オブジェクト**を選択します。

- **すべてのファイルを同期する**: バケット内のすべてのファイルをターゲットバケットに同期させます。
- **特定のプレフィックスを持つファイルを同期する**: バケット内の特定のプレフィックスを持つファイルをターゲットバケットに同期させる。最大10のプレフィックスを追加できます。

**データ同期ポリシー**を選択します。

- **完全同期 (追加/削除/変更)**: 追加、変更、および削除されたデータを含むバケット内のすべてのデータをターゲットバケットに同期させます。
- **書き込み同期 (追加/変更)**: バケット内の追加および変更されたデータのみをターゲットバケットに同期させます。

**履歴データの同期化**を選択します。

**注意:** 履歴データの同期中、ソースバケットから複製されたオブジェクトは、ターゲットバケット内の同じ名前を持つオブジェクトを上書きする可能性があります。したがって、複製前にデータの整合性をチェックしてください。

OKをクリックします。

**注意:**

- 設定が完了したら、クロスリージョン複製を有効にするには3~5分かかることがあります。同期に関する情報は、バケット同期後に表示されます。
- バケットの領域外レプリケーションは非同期であるため、データのサイズに応じて、ターゲットバケットにデータをコピーするのに通常数分または数時間かかることがあります。

## Back-To-Source ルールの設定

Back-To-Source ルール設定によって、データをフェッチするリクエストに対して複数の Back-To-Source 読み取り応答を実現し、データのホット移行およびリクエストのリダイレクトすることができます。応答は主にミラーリングとリダイレクトによって行われます。最大 5 つの Back-To-Source ルールを設定できます。設定したルールはシステムによって順番に実行されます。

**Note:** Back-To-Source 機能はイントラネットエンドポイントをサポートしていません。トラフィック料金の詳細は [料金ページ](#) をご参照ください。

## 手順

[OSSコンソール]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページに移動します。

**基本設定**タブをクリックします。

**Back-To-Source** 設定領域で、**編集**をクリックします。

**ルールを追加**をクリックします。

**Back-To-Source**タイプエリアで、**ミラーリング**または**リダイレクト**を選択します。

ミラーリングが設定されている場合、要求されたファイルが OSS 上に見つからない場合は、自動的に配信元サイトから取得され、OSS に保存され、コンテンツはユーザに返さ

れます。

リダイレクトが設定されている場合、応答条件を満たすリクエストは HTTP リダイレクトを介してリダイレクトされたURLに返されます。ブラウザまたはクライアントは、配信元サイトからコンテンツを取得します。

OK をクリックしてルールを保存します。

注：ルールが正常に保存されたら、ルールリストで設定済みのルールを表示し、対応する編集またはクリア操作を実行できます。

## オブジェクトの管理

## ファイルのアップロード

バケットを作成した後、そのバケットにすべてのタイプのファイルをアップロードできます。

OSSコンソールを使用して5 GB未満のファイルをアップロードできます。

SDKまたはAPIを使用して5 GBを超えるファイルをアップロードすることができます。詳細は再開可能なアップロードを参照してください。

**注意:** アップロードするファイルの名前がバケット既存のファイルの名前と重複する場合は、既存のファイルを上書きします。

## 手順

[OSS コンソール]にログインします。

オブジェクトをアップロードするバケットの名前をクリックして、[バケットの管理]ページを開きます。

[**オブジェクト管理**] をクリックして、バケットのオブジェクト管理ページを開きます。

[**アップロード**] をクリックして、[**ファイル選択**] ダイアログボックスを開きます。

アップロードするファイルを選択して、[**開く**] をクリックします。ファイルが正常にアップロードされた後、[**更新**] をクリックすると、アップロードされたファイルが表示されます。

**注意:** 指定したフォルダまたはデフォルトのフォルダにファイルをアップロードできます。アップロードをクリックする前に**フォルダーの作成**をクリックすると、指定したフォルダにファイルをアップロードできます。アップロードを直接クリックすると、ファイルをバケットの直下にアップロードされます。

## フォルダーの作成

Alibaba Cloud OSS では、**フォルダー**は使用されません。すべての要素はオブジェクトとして格納されます。OSS コンソールでフォルダーを使用するには、サイズが 0 で末尾がスラッシュ (/) のオブジェクトを作成します。このオブジェクトは、同じタイプのファイルをソートし、バッチ処理するために使用します。デフォルトの場合、OSS コンソールでは、スラッシュで終了するオブジェクトはフォルダーとして表示されます。このオブジェクトは、通常どおりにアップロードとダウンロードを行うことができます。OSS コンソールでは、OSS フォルダーを Windows オペレーティングシステムのフォルダーと同様に使用できます。

**注意:** OSS コンソールでは、データを含むかどうかにかかわらず、末尾がスラッシュのオブジェクトはすべてフォルダーとして表示されます。オブジェクトをダウンロードするには、アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) またはソフトウェア開発キット (SDK) のいずれかを使用する必要があります。シミュレーションフォルダーを作成して使用方法の詳細については、以下を参照してください。

- API: [Get Bucket](#)

- SDK: Java SDK- 『[オブジェクト](#)』の『[フォルダーのシミュレーション](#)』

## 手順

[**OSS コンソール**]に移動します。

ターゲットバケットの名前をクリックして、[**バケットの管理**]ページを開きます。

[**オブジェクト管理**] をクリックして、バケットのオブジェクト管理ページを開きます。

[**フォルダーの作成**] をクリックして、[**フォルダーの作成**] ダイアログボックスを開きます。

作成するフォルダーの名前を [**フォルダー名**] テキストボックスに入力します。

[**送信**] をクリックして、作成したフォルダーを格納します。

## ファイルの検索

このセクションでは、バケットまたはフォルダー内のオブジェクトのうち、名前のプレフィックスが同じものを OSS コンソールで検索する方法を説明します。

名前のプレフィックスで検索を実行する場合、検索文字列は大文字と小文字が区別され、スラッシュ (/) を含めることはできません。検索範囲は、現在のバケットのルートレベル、または現在のフォルダー内のオブジェクト (サブフォルダーとその中のオブジェクトは除く) に限定されます。OSS でスラッシュ (/) を使用する方法の詳細については、関連するフォルダーの説明を参照してください。

## 手順

[**OSSコンソール**]に移動します。

検索するバケットの名前をクリックして、[**バケットの管理**]ページを開きます。

[**オブジェクト管理**] をクリックして、バケットのオブジェクト管理ページを開きます。

検索ボックスに検索プレフィックス「aliyun」を入力して、Enter キーを押すか、[**検索**] をクリックします。バケットのルートディレクトリ内にあるオブジェクトとフォルダーのうち、名前のプレフィックスが「aliyun」であるものが一覧表示されます。

フォルダー内を検索するには、フォルダーを開き、検索ボックスに検索プレフィックスを入力します。フォルダーのルートディレクトリ内にあるオブジェクトとフォルダーのうち、名前が検索プレフィックスに一致するものが一覧表示されます。

# オブジェクト ACL の変更

OSS はアクセス制御リスト ( ACL ) を提供し、アクセス制御を行います。ファイルをアップロードするときに ACL を設定し、ファイルをアップロードした後で ACL を変更することができます。ACL が設定されていない場合、デフォルト値は 非公開 です。

OSS ACL は、バケットレベルおよびファイルレベルのアクセス制御を提供します。現在、次の 3 つのアクセス権が利用できます。

**非公開**：バケットの作成者のみが、バケット内のファイルに対する読み書き操作を実行できます。他のユーザーはこれらのファイルにアクセスできません。

- バケットの読み取りと書き込みのパーミッションが “非公開” の場合、ファイルアクセス URL を取得するときに **リンクの有効期間** を設定する必要があります。
- URL 署名リンクの有効期間は、NTP に基づいて計算されます。有効期間内にファイルへのアクセスに使用できるビジターには、このリンクを付けることができます。バケットにプライベート許可がある場合、取得したアドレスは URL 署名方式を使用して生成されません。

**公開読み取り**：バケットの所有者だけがバケット内のファイルに対して書き込み操作を実行できます。誰でも ( 匿名の訪問者を含む )、ファイルに対する読み取り操作を実行できます。

- **公開読み取り/書き込み**：誰でも ( 匿名の訪問者を含む ) バケット内のファイルに対して読み書き演算子を実行できます。これらの操作によって発生した手数料はバケットの所有者が負担するため、この許可は慎重に使用してください。

## 手順

OSS console にログオンする。

左側のバケットリストで、ターゲットバケットの名前をクリックして、バケットの概要ページを開きます。

ファイルタブをクリックします。

対象ファイルの名前をクリックして、ファイルの **プレビュー** ページを開きます。

**ACL を設定** をクリックして、ファイルの読み取りと書き込みの権限を変更します。

- バケットの読み取りと書き込みのアクセス許可が **非公開** の場合は、ファイルアクセス

- URL を取得するときにリンクの有効期間を設定する必要があります。
- 対象ファイルのプレビューページで、**署名**フィールドにリンク有効期間 ( 秒 ) を入力します。

OK をクリックします。

## オブジェクト URL の取得

バケットにオブジェクトをアップロードした後、ファイルの共有やダウンロードに使用するファイルアドレスを取得できます。

### 操作手順

[OSS コンソール]にログインします。

対象バケット名をクリックすると、**バケット概要**ページを開きます。

[**オブジェクト管理**]をクリックします。

ターゲットファイル名をクリックします。

[**プレビュー**]ページが表示されます。

オブジェクト URL: ファイルのダウンロードに使用します。

オブジェクトタイプ: ファイルを検索したり、画像ファイルに透かしを入れるために使用します。

[**URL の取得**] をクリックして、ファイルを参照またはダウンロード用のアドレスをすべてのユーザーに提供します。

バケットの ACL アクセス制御が[**非公開**]に設定されている場合は、ファイル URL を取得する際に**有効期間**を設定する必要があります。

#### 注意:

- URL 署名のリンク有効期間は、NTP に基づいて計算されます。有効期間内にファイ

ルへのアクセスに使用できるビジターには、このリンクを付けることができます。バケットにプライベート許可がある場合、得られたアドレスは URL への署名の追加によって生成されます。

- バケットまたはファイルの ACL をいつでも変更できます。詳細は、[Change bucket ACL](#) および [Change object ACL](#) を参照してください。

## ファイルの HTTP ヘッダーの設定

OSS コンソールでは、HTTP ヘッダーを 1 つだけ設定することも、複数の HTTP ヘッダーを一括で設定することもできます。

OSS コンソールのバッチ設定機能を使用すると、一度に最大 1000 個の HTTP ヘッダーを設定できます。

- API: オブジェクトのヘッダーは、[Copy Object](#) 操作で設定します。
- SDK: Java SDK-『[オブジェクト](#)』の『[オブジェクトのコピー](#)』

### 操作手順

[OSS コンソール] に移動します。

ターゲットファイルが入っているバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページを開きます。

[オブジェクト管理] をクリックして、オブジェクトの管理ページを開きます。

ターゲットファイルの [HTTPヘッダーの設定] リンクをクリックして、[HTTPヘッダーの設定] ダイアログボックスを開きます。HTTP ヘッダーを一括で設定するには、ターゲットファイルを選択して、[HTTPヘッダーのバッチ設定] をクリックします。

設定を完了します。各フィールドの詳細については、[ヘッダーフィールドの定義]を参照してください。

[OK] をクリックして設定を保存します。

# オブジェクトの削除

アップロードしたファイルが不要になった場合は、料金がかからないようにするため、削除できます。OSS コンソールでは、1 つまたは複数のファイルを削除できます。

**注意:** 削除されたファイルは復元できませんので、削除する際は十分注意してください。

コンソールで一度に最大 1,000 のファイルを削除できます。選択したファイルのみを削除するか、より大きな数でバッチ削除を実行する場合は、API または SDK ドキュメントの手順に従います。詳細については、オブジェクトの削除の関連セクションを参照してください。

- API: Delete Object と Delete Multiple Objects
- SDK: オブジェクトの管理 の複数のオブジェクトの削除

## 手順

[OSS コンソール]にログインします。

削除するファイルが入っているバケットの名前をクリックして、[バケットの概要]ページを開きます。

[オブジェクト管理] をクリックして、[オブジェクトの管理]ページを開きます。

1 つまたは複数のファイルを選択し、[削除]をクリックします。

[確認] をクリックします。

## フォルダーの削除

OSS コンソールを使用してフォルダーを削除すると、そのフォルダー内のすべてのファイルやフォルダーが自動的に削除されます。ファイルを保持する場合は、ファイルを別の場所に移動してからフォルダーを削除します。

## 手順

[OSS コンソール]に移動します。

削除するフォルダーが入っているバケットの名前をクリックして、バケットの管理ページを開きます。

[オブジェクト管理] をクリックして、[オブジェクトの管理]ページを開きます。

ターゲットフォルダーの [削除] リンクをクリックします。[フォルダーの削除] ダイアログボックスが表示されます。

注意: フォルダーに多数のファイルが入っているときは、フォルダーを削除できない場合があります。

[確認] をクリックして、フォルダーを削除します。

## フラグメントの管理

### パーツとは何ですか？

マルチパートアップロードモードを使用する場合は、オブジェクトを複数の部分に分割します。パーツをOSSサーバーにアップロードしたら、CompleteMultipartUploadを呼び出してパーツを完全なオブジェクトに結合することができます。

#### 注意:

CompleteMultipartUploadを呼び出して、パーツを完全なオブジェクトに結合することができます。MultipartUploadの使用の詳細については、**Multipart Upload**を参照してください。

ライフサイクル管理を設定することにより、不要な部分を定期的に消去することができます。これは、CompleteMultipartUploadがバケット内で長期間にわたって完了していない部分をクリアして、スペースの消費を減らすために使用されます。詳細な手順については、**Set the Lifecycle**を参照してください。

他のパーツと結合してオブジェクトにする前に、パーツを読み取ることはできません。バケットを削除するには、そのオブジェクトとパーツを最初に削除する必要があります。パーツは、主にマルチパートアップロードによって生成されます。詳細については、**Multipart Upload API**ドキュメントを参照してください。

## 手順

[OSS コンソール]にログオンします。

左側のバケットリストで、ターゲットバケット名をクリックして、バケット概要ページを開きます。

**ファイル管理**タブをクリックします。

**部品管理**をクリックして、**部品管理**ページを開きます。

パーツファイルを削除します。

- バケット内のすべてのパーツファイルを削除するには、**クリア**をクリックします。
- バケット内の一部のパーツファイルを削除するには、期待されるパーツファイルを選択または検索し、**削除**をクリックします。

表示されるダイアログボックスで、**OK**をクリックします。